なかふらの 議会だより

令和７年８月５日
発行 / 中富良野町議会
編集 / 議会広報発行特別委員会

明日のために

［表紙］中富良野町商工会青年部主催（第２１回「夏のゆきまつり」より）

第６回定例会開催

令和７年６月２３日～２５日

今回の表紙 2
町政に関する一般質問 3～7
議員研修レポート 8～9
議会広報発行特別委員から 10

第 178 号

今回の表紙

中富良野町商工会青年部の皆さんです。

中富良野町商工会青年部とは

商工会は商工業者の経営支援や地域の活性化を図るための様々な活動を行っています。

商工会青年部は商工会の組織のひとつで、昭和43年商工会の事業を積極的に推進し、商工業の総合的な改善発展を図り、地域の振興・発展、社会一般の福祉の増進、新しいまちづくりに取り組むことを目的に設立されました。

現在、青年経営者・後継者など 15 名の部員で構成され、商工業の発展と魅力ある地域づくりを目指して活動をしています。

基本方針の一つである地域振興活動では、今年で 21 回目となる「夏のゆきまつり」を JA ふらの青年部中富良野支部と中富良野町青年団協議会の皆さまの協力を得て開催している他、ラベンダーまつりでの出店や、ウインターフェスティバルへの協力、商工会主催の感謝祭ビアガーデンへの協力を行い、地域貢献の一助となるよう活動しています。

また、部員の資質向上を目指し、北海道商工会連合会が主催する研修会への参加や経営に関する専門的な講師を招いて研修会を行ったり、社会福祉事業として交通遺児募金活動など様々な活動を行っています。

［聞き手］安藤啓太 議員

YouTube 配信しています

令和6年6月定例会から YouTube 配信を始めています。

配信は町ホームページまたは下の二次元コードからご覧ください。

議会をもっと身近に
議会を傍聴してみませんか

定例会は 3・6・9・12 月の年4回、臨時会は必要に応じて開会します。

団体で傍聴される場合は、事前に議会事務局（☎ 44-3985）へご連絡ください。

第６回　定例会

令和７年第６回定例会は、６月２３日から２５日までの３日間開催されました。

町長から提出された補正予算案７件・条例案等４件、報告２件、議員提案の意見書案１件が上程され、すべての議案を原案のとおり可決とし、閉会しました。

最終日は６人の議員が町政について一般質問を行い、町長・教育長に答弁を求めました。

町政に関する一般質問

佐藤 和三 議員　4ページ

〇加齢性難聴者に対する町独自の補助制度について

〇わが町の不登校問題について

安藤 啓太 議員　5ページ

〇農業収入に関することについて

〇町外通院に関する件について

村山 友希 議員　6ページ

〇観光と街中の賑わいを取り戻す振興策について

岡本 伸一 議員　6ページ

〇地震に強いまちづくり推進計画について

寺岡 祐子 議員　7ページ

〇町外と連携した予約型乗合タクシーの拡充と対象拡大について

市山　翔 議員　7ページ

〇北星山旧キャンプ場の再建について

議会のうごき（令和７年５月～令和７年７月）

■５月　９日　第４回町議会臨時会（初議会）
　　２９日　全員協議会
　　第５回町議会臨時会
　　総務社会常任委員会

■６月　５日　産業建設文教常任委員会
　　１２日　全員協議会
　　１３日　議会運営委員会
　　２３日　全員協議会
　　第６回町議会定例会①
　　議会広報発行特別委員会
　　２５日　第６回町議会定例会②
　　議会運営委員会
　　全員協議会

■７月　８日　北海道町村議会議員研修会
　　１５日　第７回町議会臨時会
　　全員協議会
　　総務社会常任委員会

加齢性難聴者に対する町独自の補助制度について　佐藤議員

○佐藤議員
　多くの自治体では、加齢性難聴者の高齢者に対する補聴器購入費用への自治体独自の補助を実施している。
　２０２５年２月現在で上川管内では、東川町、幌加内町、東神楽町、美瑛町、上川町、当麻町、旭川市に広がっている。今は、高齢者の社会参加や、定年延長、再雇用で働くことが増えていることから、耳が聞こえないことが、社会参加や働く上での障害になってきている。
　そこで、軽・中程度の難聴者に対する中富良野町としての独自の補聴器購入補助制度を実現してほしい。

●小松田町長
　軽・中程度の難聴者への補聴器購入補助制度については、障害者総合支援法で実施している補助制度に基づき補助を行っていきます。今後については、旭川市等で行っている介護保険制度を利用した支援等を含め検討していきます。

わが町の不登校問題について　佐藤議員

○佐藤議員
　現在、わが町の不登校の数は、他の地域と比べると少ないといえると思います。しかし、小学校の統合とそれに続く、９年制の義務教育学校への移行による教育環境の急激な変化により、不登校が増加する可能性があると心配している。
①不登校になっている、また初期段階のこどもや家族に対してどのような対応と対策をするのか。
②「校内親の会」を開くのはどうか。
③競争と管理の教育を見直し、学校にこども達を合わせるのではなく、こども達に合った学校を作ることが大事だと思う。

●松浦教育長
①町の学校教育アドバイザーが小・中学校の担任教諭及び特別支援教育コーディネーターと連携し対応に当たっているほか、「スクールカウンセラー派遣制度」及び「スクールソーシャルワーカー活用事業」の制度を活用し、専門的な見地から指導も受けながら対応しています。
②「親の会」を開くことは、こどもの状況・保護者の思いも多様なことから慎重に検討する必要があると考えています。
③義務教育学校推進計画「Ｎプロジェクト」及び「創る人プラン」により、引き続きこども達が通いたくなる学校づくりを目指していきます。
　義務教育学校の開設に当たり校則は、保護者・児童生徒・教員の３者で決定していくよう進めています。

一般質問

農業収入に関することについて

安藤議員

○安藤議員
高騰する資材価格や農産物の小売価格の振れ幅が、農業経営に与えている影響について、どのように現状認識や販売価格への適切な転嫁などの現状分析をしているのか。また、農業生産者の経営安定のための町の支援策は、価格転嫁が進まない現状に対し、十分な効果を発揮していると考えているのか。

●小松田町長
ふらの農業協同組合の通常総代会資料等で確認していますが、販売価格へ転嫁されているかどうかの分析は行っていません。また、農家からの資材等の高騰の声が聞こえているのは承知していますが、分析には至っていません。当町の農業者向けの事業等は、価格転嫁とは別の意味での農業所得向上について効果を発揮していると考えています。

○再質問
優秀な農家の皆さんがより良いものを作っていただけるような取組として中富良野町の生産物が価格転嫁をできるような仕組みや取組が必要ではないか。

●答弁
町でコントロールすることが非現実的であるため、各関係団体で調整を行っていただきたいと考えます。

○再質問
中富良野をブランディングするといった企画によって付加価値を上げるような考えはあるか。

●答弁
ナカフまちづくり株式会社を利用したブランディングなどで検討しています。

町外通院に関する件について

安藤議員

○安藤議員
高齢者が富良野市内の病院へ通院する際の困難さについて町はどのような現状認識を持っているか。公共交通機関の利用状況、高齢者の運転免許保有率、通院支援サービスの利用状況などのデータを用いた分析があるか。町が実施している高齢者向けの通院支援策について、その利用状況と課題について通院を必要とする高齢者全体をカバーできているか。

●小松田町長
町外の専門科医へ通院の必要があることは認識しています。また、各種データに基づいた分析については、現状把握はしていません。各種支援策についても利用が限定的であり、高齢者全体を町のサービスですべてをカバーすることは難しいものと考えています。

○再質問
週1回などの定期便を走らせることなどはできないか。

●答弁
公共交通機関がある中での定期便運行は難しいと考えています。

○再質問
公共交通機関から病院までの移動に不便さがあり、足の悪い方などは階段などを考えると利用しづらいと思う。地域ごとの取りまとめを行う等、町として工夫してやれることはないか。

●答弁
課題をしっかりと捉えて一つひとつ問題を解決しながら、高齢者にやさしい公共交通機関の構築などを地域公共交通会議等で意見交換を行い検討していきたいと考えます。

観光と街中の賑わいを取り戻す振興策について

村山議員

○村山議員
本町の観光客は117万人前後で、特に冬場の観光客は極端に少ない。通年観光を目指すため、この街中のシャッター街をどう活性化させていくかが大切なことだと考える。駅前の観光施設の建設が始まるが、これだけでは不十分と考えるが駅前構想をどう考えているか。

●小松田町長
駅前を単なる交通拠点ではなく商業・教育・交流の中心地として位置付け、まちの活性化につなげたいと考えています。

○再質問
西中・旭中小学校の道の駅、宿泊施設などの活用の可能性はどうか。

●答弁
ＪＡＬのオーベルジュを着工し、北星山の再開発やワーケーション等を使った滞在も進めているので、景観・自然・食・農業を含めた形で通年観光の取組を進めていき、学校の利用はなるべく民間の方に活用してもらいたいと考えています。

○再質問
今、建設する観光施設をどのように展開していくのか。

●答弁
観光拠点施設のテナントについては、意見交換をしながら進め、若い人、チャレンジしたいという方に入ってもらうことを考えています。

○再質問
駅前の農協の施設群が一番大きいが、我が町にしかできない街づくりを長期的に考えてほしい。

●答弁
人の流れ、物流も変化しているので、今後協議をさせていただきながら、駅前開発の方向性を示すよう考えていきます。

地震に強いまちづくり推進計画について

岡本議員

○岡本議員
地震に強いまちづくり推進計画では、地震によるブロック塀等の倒壊を防止するため、市街地内の実態調査、倒壊危機箇所の把握など、町は実際に行っているのか。
また、冬期での地震の際、雪の重みなどによる倒壊の危険がある建物などの把握や備えはできているのか。

●小松田町長
ブロック塀等については点検基準をもとに確認し、不具合と考えられる箇所を把握しています。また、点検方法や災害発生時の対応についても、町ホームページや広報で周知を行っています。
冬期での地震の際、倒壊の危険がある建物への対応については巡回、点検を実施して、危険箇所を把握し、所有者に注意表示及び雪下ろしについて依頼するとともに、防災無線や広報等を活用した注意喚起を行っています。

○再質問
推進計画の基準の見直しなどは検討されているのか。

●答弁
防災計画等の内容については、改定等も行っているところです。
次期の改定時には、十分検討しながら進めさせていただければと考えています。

○再質問
町外在住者が所有する危険建物の情報を、より積極的に共有してほしい。

●答弁
町民の安全を第一に建物の所有者へ適切な情報提供を行い安全対策にしっかりと取り組んでいきます。

一般質問

町外と連携した予約型乗合タクシーの拡充と対象拡大について

寺岡議員

○寺岡議員
①予約型乗合タクシーについて、児童の利用について検討する考えはあるか。
②町外への移動ニーズ、こども達の習い事等の利用も視野に入れたサービスの拡充について、町はどのように認識しているか。
③富良野市や上富良野町と連携し、予約型乗合タクシーを広域的に運行することについて、今後の協議や検討の予定はあるか。
④観光客の利用も含めた仕組みにすることで、地域経済に与える波及効果について、町の考えを伺いたい。

●小松田町長
①児童についてはスクールバスを利用していただくことを考えています。乗合タクシーの利用は人員確保等の課題があるので、慎重に検討していきます。
②③④については現状、JRやふらのバスが運行していることもあり、町外移動に係るサービスの拡充については、難しいものと認識しています。

○再質問
実際にニーズがある時間帯に使える公共交通はない。こども達がやりたいことをあきらめなくてはいけないような地域にしてはいけない。交通機関に放課後の時間帯など利用できるように働きかけてほしい。今後、部活動の地域移行等も含めて、広域にも働きかけてほしい。

●答弁
公共交通機関や習い事等のニーズがある上富良野町との検討ということで、町からも意見させていただきたいと考えます。

北星山旧キャンプ場の再建について

市山議員

○市山議員
北星山旧キャンプ場の再建について、近年のアウトドア需要の高まりや、こども達の自然体験の場としての価値、さらには地域経済への波及効果を踏まえ、オーベルジュと連携した再整備を進めるべきと考える。町民や観光客が気軽に楽しめる開かれた場所として、段階的整備や民間活用も含め、柔軟な手法での再建が必要ではないか。

●小松田町長
平成28年に上水道や浄化槽等を設置し、キャンプ場を無料開放していましたが、維持管理費などの課題がありました。今後は北星山森林公園構想作成業務を委託した株式会社良品計画との協働の中で、町民の意見も踏まえながら、北星山全体の将来像とあわせて、キャンプ場の活用も含めた検討を進めていきたいと考えています。

フラワー都市交流連絡協議会総会

市山　翔 議員

令和７年度フラワー都市交流連絡協議会総会が、5月14日、15日に岐阜県大野町にて開催され、全国９都市の代表が集い町の魅力や花に関する取組を共有した。大野町は人口約21,000人、戦国武将・竹中半兵衛の生誕地として知られ、「ばら」が町のシンボルフラワーである。

視察では、大野町の「バラ公園」や「野古墳群」、国内有数のバラ農園「河本バラ園」などの美しい景観や先進的な花の育種技術、文化資産との調和など多くの学びを得た。また「木曽三川公園センター」では公園を活用した地域交流、「株式会社岐孝園」では地域連携の園芸ビジネスとともに、樹齢100年を超えるサボテンの見応えある展示も印象的だった。

「内藤記念くすり博物館」「岐阜オアシスパーク」「岐阜ワールドローズガーデン」「美濃の里」などを巡り、花と歴史、観光、産業が結びついたまちづくりの先進事例を体感できた。

さらに、総合町民センターでいただいた「大野町太鼓判弁当」は、梱包デザインから地元食材にこだわった内容まで、大野町の魅力を“食”で伝える素晴らしい取組だった。

令和８年度の開催地は中富良野町である。本交流で得た知見をもとに、「ラベンダーの町」として中富良野ならではの魅力を発信したい。

バラ公園

全道議長会定期総会及び議長・事務局長研修会

石神唯安 議長

6月10日、北海道町村議会議長会定期総会が札幌市で開催された。議案審議に続き、全道各地から議題が提出され、上川議長会からは北海道農業の将来を見据えた持続可能な農業政策と安定した食料供給体制の確立を求める「改正基本法・基本計画の推進に関する要望」が提出され全会一致で可決された。

総会終了後には、北海道大学公共政策大学院の今井太志教授を講師に迎え「地方財政の現状とこれからの地方創生」をテーマとした研修会が開催され講演を拝聴した。

講演ではまず、地方財政の基本構造とともに、令和5年度決算をもとにした道内市町村の財政状況が示された。特に多くの自治体が地方交付税や臨時財政対策債に依存しており、自主財源確保が課題である点が強調された。また、人口減少や高齢化の進行により、福祉・医療分野を中心とした財政負担が年々増加している現状も指摘された。

後半では「地方創生」から更に発展した「地方創生2.0」という新たな視点が示された。これは、従来のハード中心のインフラ整備や交付金頼みの施策からの脱却を目指し、地域が主導し多様な連携を構築しながら課題解決や価値の創造を図るアプローチである。

今回の研修を通じて、地方財政の厳しい現実を改めて認識するとともに、今後の地域づくりにおいては住民の参画や多様な視点を取り入れた「共創のまちづくり」が一層重要であることを強く感じた。

北海道町村議会議員研修会

安藤啓太 議員

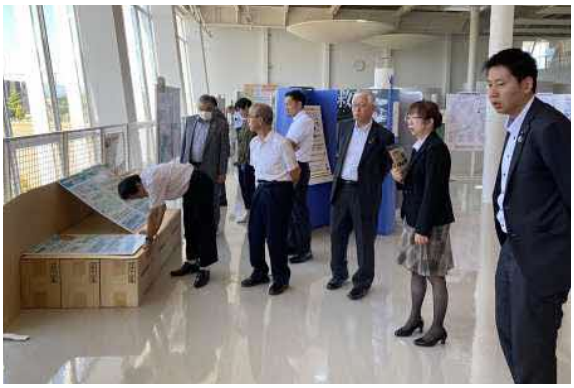
札幌コンベンションセンターにて町村議会議員研修会が執り行われ、町議会議員全員で参加した。

2日間にわたる日程の中で、「地方議会における議員の多彩化に向けて」という題目の下、西南大学法学部教授勢一(せいいち)智子氏から人口減少に伴う若者の政治参画についての課題など様々な視点からの講演をいただき、現在の社会構造を見直すことの重要性を感じ、新たな視座で地域を見直していく重要性を学んだ。

また「人口減少社会を生き抜くために」と題された講演については、元内閣総務大臣・現人口戦略会議副議長の増田寛也氏から地方創生2.0基本構想の説明に始まり、今後の目指すべき地方の姿の実践例を踏まえながら、主に技術革新と経済的観点の2つで講演をいただき、農業と観光のまちとして人口減少に対する人手不足の解決方法の具体的な例などを興味深く学ばせていただいた。

翌日には、千歳市内の防災学習交流施設そなえーるにて防災の重要性を改めて学んだ。想定される災害の様々な対応や全国各地で起きた地震体験等ができる施設となっており、多くの学びを得た。

今後、中富良野町にとって有意義なものとなるよう今回の経験をしっかりと活かして行きます。



議会広報発行特別委員から

委員長
岡本　伸一

これからの中富良野町の議会広報誌を考えたとき、“まずは手に取り開いていただく”そして“議会の活気を感じる広報誌”にできれば、より町民と議会のつなぎ手としての役割と身近にある見通しの良い明るい議会になりえるのではないかと考えています。

新しい広報委員を迎え様々なアイデアを広報誌の中に盛り込んでまいります、皆さまのご意見も頂戴したいです、取材もお願いするかと思います。今後の広報誌にご期待ください。

副委員長
市山　翔

町民の皆さんと力を合わせ、より良い中富良野町を目指すために、議会をもっと身近に感じられる「議会だより」をつくっていきます。議会の活動やまちづくりの取組を、分かりやすく・親しみやすく伝えることで、誰もが中富良野に関心を持ち、自分ごととしてまちの未来を考えるきっかけになるような広報を目指します。議会広報が、町民の皆さんとの懸け橋になるよう努めてまいります。

村山　友希

今期の改選で議会広報発行特別委員会の委員として、活動させていただくことになりました。どのような「議会だより」の紙面づくりをしたら、町民の皆さま方に更に目を通していただけるのか、新メンバーで色々な意見交換をしながら紙面の作成を行っていこうと考えています。

「あなたと議会を結ぶガイドブック」になるよう努力いたしますので、是非皆さまのご意見もお寄せください。

安藤　啓太

新たに広報委員に選出されました。町民の皆さまにしっかりと見ていただける紙面とできるよう工夫をしていく所存です。また、中富良野町の様々な顔が見られるよう、議会と地域の情報を的確にお手元に届けられるようにしていきます。昨年よりは地域の団体紹介を行い、広く地域の活動を知っていただけるよう趣向を凝らしております。中富良野町を議会だよりからもっと知りたくなる「明日のために」繋がる広報を目指していきます。面白い情報などがあれば是非ともお知らせください！

寺岡　祐子

新しいメンバーで創る議会だより。新人議員が加わり、編集会議でも、活発な意見交換がなされ、いろいろなアイデアが出されています。制約がある中でいきなり大きく変えることは難しくとも、少しずつでも色んなことを試していければと思います。毎年開かれる議会広報の研修でも「全部を伝えなくていい、いかに『伝わる』かだ」と聞いています。皆さんに「伝わる」読みやすい議会だよりをお届けできるよう今期もがんばります！

［裏表紙］ラベンダーまつり花火大会より